

平成26年度成果報告書

I. 業務の内容

1. 業務の題目

「新しい科学コミュニケーションの探索」

2. 担当フェロー

佐倉 統

3. 当該年度における成果

科学コミュニケーションと日本社会のあり方に関する理論的枠組みの整備

(1) 理論的枠組みの構築

基礎調査3ユニット（渡辺ユニット、平川ユニット、佐倉ユニット）との連携会議を4回実施し、理論的様相の考察を行った。科学知と生活知の使い分けや相互作用を通じた新たな価値の創出が、科学コミュニケーションにおいて重要であるという仮設的枠組みを導いた。

(2) ワークショップ

日本社会における科学コミュニケーションのあり方を検討するため、科学コミュニケーションセンター・フェローとのワークショップを実施し、科学と社会の関係に関する参加者の多様な視点や価値観を通じて科学コミュニケーションの今後の戦略を多方面から掘り下げた。

(3) インタビュー

平成26年度から科学コミュニケーションセンターのフェローに任命された専門家へのインタビュー調査を行った。対象者は永山國昭（総合研究大学院大学理事、自然科学研究機構生理学研究所名誉教授）、長崎榮三（国立教育政策研究所名誉所員）、田中幹人（早稲田大学政治経済学術院ジャーナリズムコース准教授）の各フェロー。

(4) 新しい科学コミュニケーションの探索

日本におけるこれまでの科学コミュニケーションの枠組みで十分に捉えられなかった諸活動、隣接分野で行われている科学コミュニケーションと関わりの深い諸活動など、これからの科学コミュニケーションのあり方を考える上で示唆に富むと思われる国内外の事例（37例）を調査した。